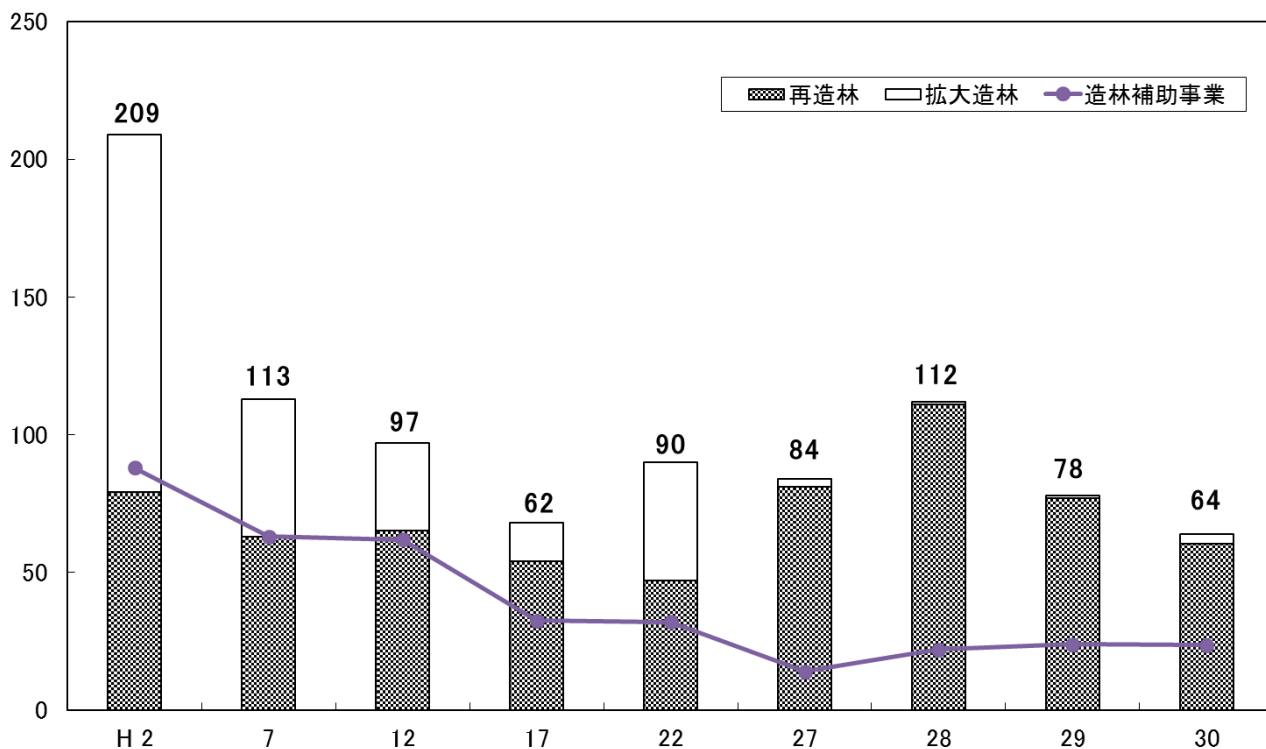


2. 森林の整備

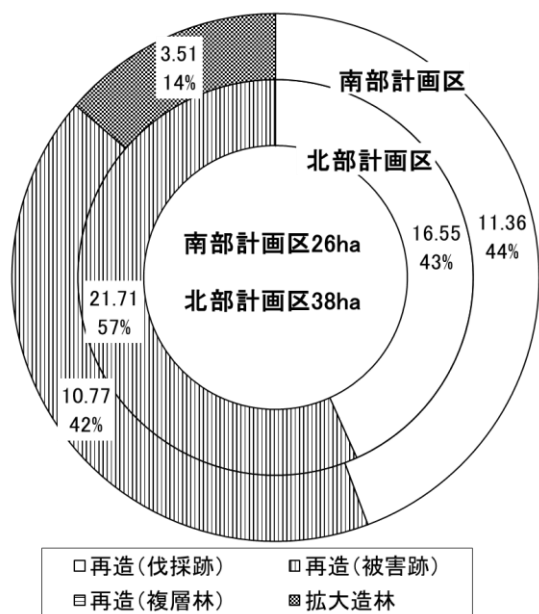
(1) 人工造林

—造林面積は低調—

面積(ha)



造林種別人工造林面積地域別人工造林面積 (ha)



本県の造林面積は平成17年度まで大幅に減少した後、28年度まで増加傾向であったが、29年度は再び減少し、30年度は約64haとなった。

また、その内、補助造林面積は約24haであり、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は約37%となっている。

造林種別の内訳は、被害林跡地等への再造林が前年度より17ha減少し約60haとなっており、拡大造林は前年度より3ha増加し約4haとなっている。

30年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より10ha減の約38haとなっており、すべて再造林となっている。

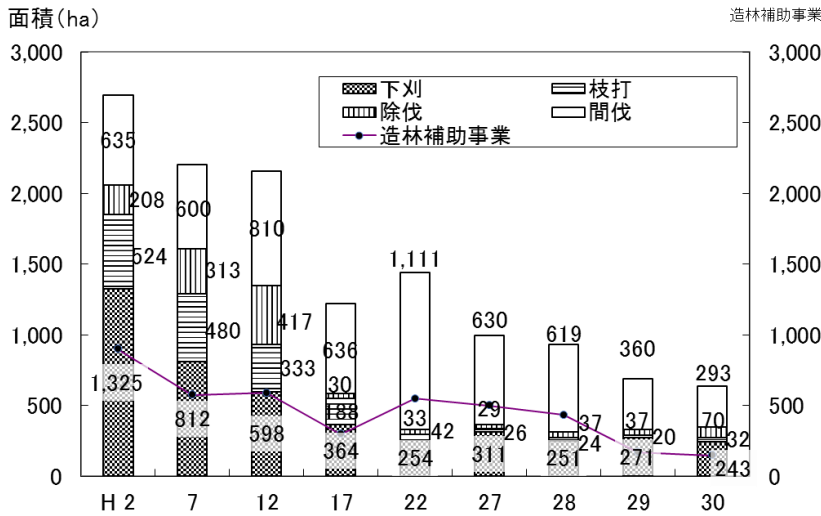
一方、南部計画区は前年度より4ha減の約26haであり、北部計画区と同様に再造林がほとんどを占めている。

造林樹種別の面積構成は、スギが37% (24ha)、ヒノキ15% (10ha)、マツ22% (14ha)、広葉樹25% (16ha)となっており、前年度に比べマツは増減がないが、ヒノキの割合が約10%増加したのに対し、スギと広葉樹の割合が約5%減少している。

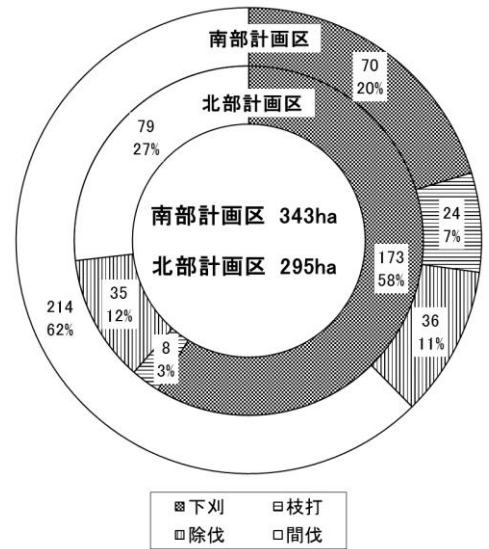
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積は減少傾向—

間伐・保育面積の推移

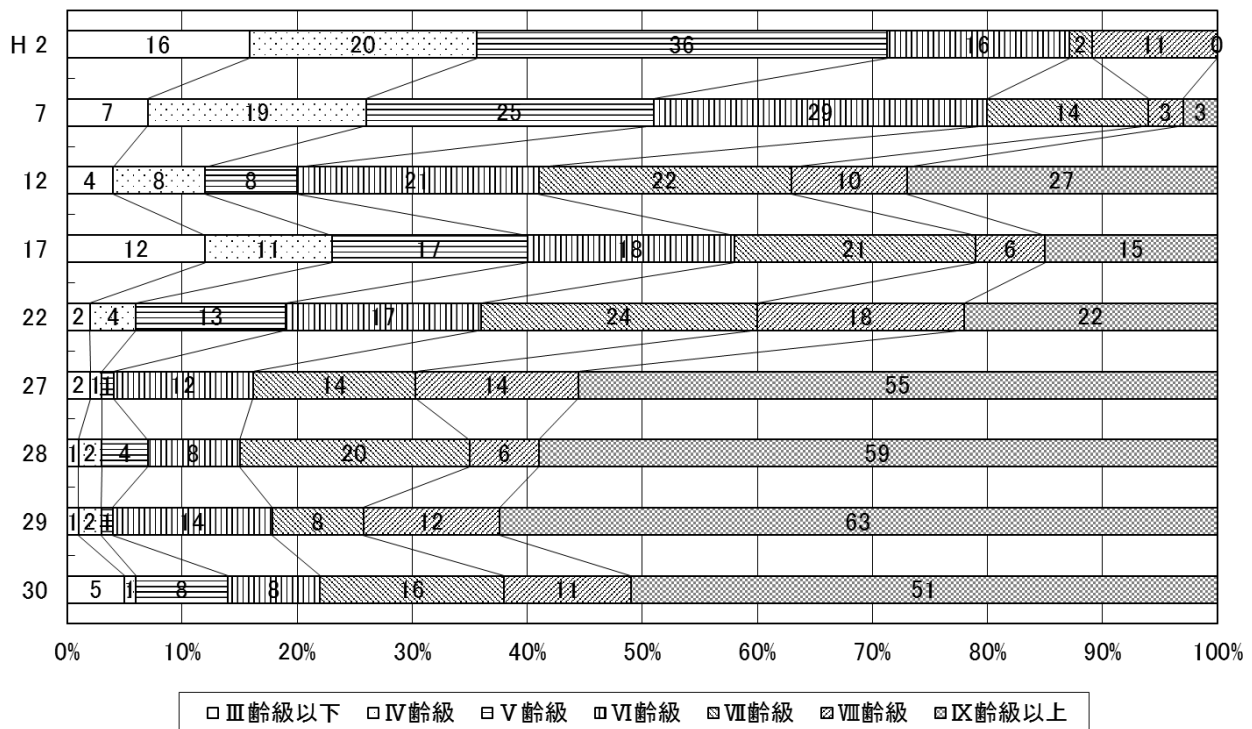


地域別間伐・保育面積 (ha)



単位: %

間伐の齢級構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、17年度まで大幅に減少した後、22年度に1,111haまで回復したが、再び25年度に減少した。しかしながら、27年度にかけて再び増加し、28年度は微減にとどまった。

30年度については、前年度から51ha減少し638haとなった。種類別には、除間伐が前年度から34ha減少し363ha、下刈は28ha減少し243haとなっている。

地域別傾向としては、北部計画区では前年度から37ha増加し295haとなり、南部計画区は前年度から88ha減少し343haとなっている。種類別内訳については、北部計画区が間伐27%・下刈58%に対して、南部計画区では間伐62%・下刈20%となっている。

間伐実施面積の構成を齢級別にみると、30年度は前年度と同様にIX齢級以上の割合が約51%となり、VIII齢級以上で見ると間伐全体の約62%を占めるなど高齢級化が進行している。